

●三位一体後第十五主日

泉のほとり

今月の詩編「第百二十編」

主よ、わたしの魂を助け出してください。

偽って語る唇から

欺いて語る舌から



本当に重要なことを

見分けるように

使徒パウロが教会や個人に宛てて書いた手紙は、新約聖書に十三巻あります。そのうち教会に宛てた手紙は九つです。これらの手紙は、福音書や使徒言行録のように出来事を中心とした記録とは違い、それぞれの教会との具体的な関係性の中で記されています。ですから、手紙を読むときには、その教会が置かれていた状況、霊的な状態、成長や成熟の度合いを踏まえて読むことが大切です。

ガラテヤ教会に宛てた手紙は、短い挨拶の後、すぐに彼らが偽りの教えに惑わされていることへの厳しい驚きから始まります。しかし、フィリピ教会への手紙には、そのような緊張よりも、深い平安と愛が漂っています。フィリピ教会は、パウロが第二回伝道旅行の中で、マケドニアへ導かれた時に出会った教会でした。アジア州で御言葉を語ることを聖霊に禁じられたパウロは、トロアスで「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください」という幻を見ました。そして海を渡り、現在のギリシア北部にあたるフィリピへ導かれたのです。

パウロはこの手紙の冒頭で、自分を「キリスト・イエスの僕」と呼びます。他の多くの手紙では「使徒」と名乗るパウロが、ここではそうしませんでした。それは、フィリピの兄弟たちとの間に、使徒としての権威を改めて示す必要がないほどの深い信頼と親密な交わりがあったからでしょう。パウロは彼らを思い起こす度に神に感謝し、祈る度に喜びをもって祈っていると云います。それは、彼らが最初の日から今日まで福音にあずかっていたからです。

フィリピ教会を含むマケドニアの諸教会は、困難と貧しさの中にありながら、エルサレムの聖なる者たちを助けるた

め、自ら進んで献げました。彼らはまず主に自分自身を献げ、次いで神の御心にそってパウロたちにも自分自身を献げました。キリストがご自身を惜しまず与えられた御業がパウロを捉え、そのパウロの働きを通してフィリピ教会にも現れ、さらに彼ら自身のうちにも同じキリストの実が現れていたのです。だからこそ、パウロは彼らを思うたびに、感謝と喜びに満たされたのです。

しかしパウロは、そのように成熟した教会に対しても、「そのままでよい」とは言いません。彼は祈ります。「知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように」と。本当に重要なこととは何でしょうか。それは、パウロ先生の語られることが示すように、主の日に備えることです。主の日に備えて、きよい者、咎められるところのない者となることです。そして、イエス・キリストによって与えられる義の実をあふれるほどに受けて、神の栄光と誉れとをたたえる者となることです。

教会は「一つになりましょう」という主張によつて一つになるものではありません。本当に重要なことを共に見分け、その一つを見て歩むところに、霊的な一致が与えられます。私のために死んでくださり、復活され、再び来られる主の日に備えて歩むこと。その信仰に伴われて、教会は一つにされていくのです。

成熟したフィリピ教会でさえ、立ち止まることなく前進するように祈られました。だとすれば、私たちはなおさらです。本当に重要なこととは何でしょうか。私たちも、知る力と見抜く力とを身に着け、それぞれ自分が今どこまで進んできたのかを見分け、到達したところから、後ろを振り向かず、主の日に備えて、ただ前進していきたいのです。

(フィリピ一章一〜二節黄允湜牧師)

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《2026年度

教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で、

キリストの体としての一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○ 次回の洗礼式と転入会式は二月二〇日のクリスマス礼拝の際に行う予定です。受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、一月一日(日)までに牧師宛へ提出ください。願書は教会事務所にあります。

《役員会より》

礼拝後一二時一五分から教会員懇談会を開催します。各自昼食をとって地下ホールにお集まりください。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《シオンの会より》

九月一六日(水) 一〇時三〇分〜一二時シオンの会を地下ホールで行います。(オンラインも併用します。)テキスト「使徒言行録を読もう」P.一二四 一七ひとつの教会に生きるために(一五章一節〜三五節)を読みます。新しく参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《ルツの会より》

次週、二〇日礼拝後、ルツの会を地下ホールで行います。民数記二七章後半を学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百二十篇】都に上る歌。

苦難の中から主を呼ぶと

主はわたしに答えてくださった。

「主よ、わたしの魂を助け出してください
偽って語る唇から、欺いて語る舌から。」

主はお前に何を与え

お前に何を加えられるであらうか

欺いて語る舌よ勇士の放つ鋭い矢よ

〔司・会〕

えにしだの炭火を付けた矢よ。

わたしは不幸なことだ

メシエクに宿り、

ケダルの天幕の傍らに住むとは

平和を憎む者と共に

わたしの魂が久しくそこに住むとは。

〔司・会〕

平和をこそ、わたしは語るのに

彼らはただ、戦いを語る。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「全き心で神と共に歩もう」

聖書 創世記6章5～14節

説教者 宮間 彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「人への神の御心を忘れず」

聖書 創世記9章8～16節

説教者 宮間 彰広兄

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 494番 196番

説教 「聖霊に導かれる群れ」

聖書 使徒6章8～15節、

7章51～8章1節

説教者 吉村和雄 名誉牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 76番 337番
説教 「生きるにも死ぬにもキリストが」
聖書 フィリピ1章12～30節(新約 P.361)
司式 山下純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「前奏曲とフーガハ長調」G.バーム

○讃美歌76番

- 1.ほめまつれ 御神をば そのわざに秘めたもう
またき力 またき知恵 たたえまつれ もろびとよ
- 2.地は空をわたりつつ くにくにを乗せめぐり
つとめの目をあおがしめ いこいの夜をむかえしむ
- 3.ものみなはとどまらず はてしなき移ろいや
みことのりにしたがいて 山はうつり 海も消ゆ
- 4.おおいなり天つかみ み名にのみ ほまれあれ
くすしきかな御手のわざ こえのかぎりほめうたわん
アーメン

○聖歌隊による讃美

「よろこび歌え」 E.CROCKER作曲
よろこび歌え 主に 賛美の歌を
よろこび歌え 主に 共に歌え 主に
歌えハレルヤ 讃えよ主を
天に向かい歌えよ 天使たち
日よ、月、星よ、山よ、谷よ、木よ、花々よ
すべてのものら 主に歌え
歌えハレルヤ 愛の歌を
空を、海を、日を作られた主を
歌え 主に ハレルヤ 賛美の歌を
(歌えハレルヤ 讃えよ主を)
歌え 主に ハレルヤ 賛美の歌 主に
(歌えハレルヤ 主に)
よろこび歌え 主に 賛美の歌を
よろこび歌え 主に 共に歌え
主に 神に

○讃美歌337番

- 1.わが生けるは 主こそよれ
死ぬるもわが益 また幸なれ
- 2.富も知恵も みな主のため
力もくらいも また主のため
- 3.追めも飢えも みな主のため
うれいも悩みも また主のため
- 4.主のためには 十字架をとり
よろこび勇みて 我はすすまん
アーメン

聖餐曲「いと高きにある神にのみ栄光あれ」J.P.スウェーリック

後奏曲「後奏曲ニ長調」F.メンデルスゾーン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。